

公民館 30 周年記念誌

“キョウ”からあしたへ

驚 興 郷 境 共
競 協 恐 響 教

福生市公民館

30 年を迎えて

福生市公民館長 伊東 静一

福生市公民館は、1973（昭和 48）年、当時の青年や主婦が中心になって活動を始めた「ふっさ公民館を創る市民の会」の公民館設置要求活動や、市議会議員の方々と行政側の努力と工夫もあって、1977（昭和 52）年に開館することができました。

現在の公民館制度は、戦後まもなく平和と民主主義を学び、文化の香り高い人格を形成し、産業を振興し、政治をただし豊かな地域社会を創造するという目的を持って始められ、そして、1974（昭和 49）年に東京都教育庁が「新しい公民館像をめざして」という都市型公民館のあり方を提案しました。福生市公民館は戦後の公民館の目的と、都市型公民館の理念を統合して作られたものでした。

開館以来 30 年をふり返れば、時代の移り変わりとともに、利用する方々も利用の内容も変化してきました。開館当時には青年のサークル活動が盛んでしたが、徐々に女性の利用が増加し、最近では高齢の男性の利用も増えています。

また、公民館ではたいへん多くの主催事業を実施し、職員と利用者、利用者同士が共に学びあう中で、学習成果を蓄積した住民によって福生の文化の創造と発展に寄与してきたものと思われま。公民館を一言で表現すれば、住民自らが「地の智を知る」「智をつなげる」ための学習施設であるといえるでしょう。

さて、今から 65 年も前の話になりますが、作家の島崎藤村が次のような言葉を残しています。

「人の世に三智がある。学んで得る智、人と交わって得る智、みづからの体験によって得る智がそれである。さういふ自分は今日に行き詰ってゐるばかりでなく、出発のそもそもからすでに行き詰ってゐた。でも、歩いて出るたびに道が開けた。地に触れるたびに生き返った。」（原文のまま）

島崎藤村が考えた智は、個々人の学習を個々の中で「集約化」「総合化」していく過程を経た、本来の教養としての智だと思います。

これからの福生市公民館は、福生の住民が福生の魅力を発見しその魅力を広げていくために、多方面から統合化する学習が必要だと考えています。それら学習は、個人が書物や文献だけの個別学習では到底達成できません。住民同士が交流し、お互いの体験を通して智を大きく育てる個別学習を越える系統的・継続的な共同学習の必要があるでしょう。

島崎藤村が「地に触れるたびに生き返った」と表現したように、住民自身が公民館での共同の学びから生み出す、活き活きとした魅力ある福生の将来が見えるような気がします。

記念誌発刊に寄せて

福生市教育委員会

教育長 宮城 眞一

昭和 52 年、福生市に公民館が誕生してから平成 18 年度をもって 30 年を迎えました。この 30 年を振り返る時、公民館建設にご尽力をいただいた「ふっさ公民館を創る市民の会」、「文化協会」、「市議会」ならびに関係各位に改めて感謝申し上げます。

そして開館以来 30 年の長きにわたり支えていただきました歴代の公民館運営審議会委員をはじめ市民の皆様に敬意を表するものです。

福生市及び福生市教育委員会は社会教育委員の会議答申「福生市社会教育基本構想(中間報告)」(昭和 50 年 12 月)をもとに中学校区に一つの公民館、図書館、体育館、小学校区に一つの集会施設を順次整備し、現在、公民館 3 館、図書館 4 館、体育館 3 館、地域会館 8 館(併設を含む)の体制で、市民の社会教育活動に利用していただいております。

公民館は社会教育の中核施設として、開館以来、市民の皆様とともに豊かな学習・文化活動を展開してまいりました。

福生市においても、昨今の行財政改革、地方分権の流れの中で、厳しい行財政運営の中にありますが、福生市教育委員会は「子どもたちが、知性・感性・道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願い、人権尊重の精神を基礎として、思いやりと規範意識のある人間、社会・地域の一員として貢献しようとする人間、個性と創造力豊かな人間、国際社会の信頼と尊厳を得る人間を育成する教育を推進する。

また、生涯学習を振興し、市民のだれもがあらゆる場で学び続けることのできる社会の実現を図る。

教育は、学校・家庭・地域の三者が互いに手を携えて責任を果たしてこそ、その成果があがるものとの認識に立って、すべての市民が参加する教育を目指す」との教育目標を掲げ、市民の学習文化活動の発展のために、今後とも条件整備をすすめてまいる所存です。

その一翼を担う公民館活動が、市民の皆様とともにさらに発展し、また市民の皆様が地域で益々活躍されることを期待し、あいさつとさせていただきます。

記念誌発行を祝して

福生市公民館運営審議会

委員長 高崎 賢啓

記念誌発行を心よりお祝い申し上げます。

この10年という月日は、私が公民館に携わってきた時間そのもので、改めて時間が経つ早さを実感しています。

私にとっての公民館は、学習する場だけではなく、人とのつながりを広げ、大袈裟かもしれませんが人生観を大きく変えてくれた場所でもあります。地域でのつながりがあまりなかった自分が、公民館のつどいをきっかけにサークル活動を立ち上げ、利用者連絡会や各館での祭りに参加し、多くの方と知り合うことが出来ました。そして、このことが公民館の良いところであり、守っていかなければならないと考えます。

行財政改革のもと、各地で職員の削減や正規職員の非常勤職員化、指定管理者への管理代行や公民館を改廃し首長部局へ移管するなど、公民館を取り巻く状況は厳しいものがあります。

そのような中、福生市、福生市教育委員会が公民館を大事に思い、その発展にご尽力いただいていることは、とても心強く、また頭の下がる思いです。

私ども公民館運営審議会委員一同も、公民館のあるべき姿を現代に即して考え、市民の学習する場、人と人が出会い、つながりあえる場としてさらに発展するよう、微力ではありますが、力をつくしてまいります。

この10年で築きあげてきたもの、そして開館から30年、伝統として受け継いで来たものを大切にしながら、これからの公民館に期待していきたいと考えます。

もくじ

あいさつ

30年を迎えて 福生市公民館長 伊東静一	i
記念誌発刊に寄せて 福生市教育委員会教育長 宮城真一	ii
記念誌発行を祝して 福生市公民館運営審議会委員長 高崎賢啓	iii

第1章 30年を振り返る

1 福生市公民館の30年を振り返る	1
2 座談会「30年を振り返って」	13
加藤孝子、佐々木京子、佐藤重子、高崎賢啓、竹田政枝、萬沢明、伊東静一	

第2章 公民館10年のあゆみ（1997年～2006年）

1 保育室併設講座と公民館	
・保育室併設講座のあゆみ	25
・公民館の保育室事業を担う保育者として 會田ゆき子、佐々木京子	26
・地域に戻るきっかけとなった保育室併設講座 原島佳子	28
・保育室併設講座を受講して 佐藤智香子	29
・事業一覧	30
2 青少年と公民館	
・青少年事業のあゆみ	33
・私が公民館へ来るきっかけ 野村 亮	36
・事業一覧	38
3 女性と公民館	
・女性対象事業のあゆみ	43
・女を磨く私の時間 ～自分のスマイルをトリモドセ！～ の講座に参加して マグワイヤー文子	44
・事業一覧	46
4 成人と公民館	
・成人対象事業のあゆみ	49
・事業一覧	53
5 高齢者と公民館	
・高齢者事業の歴史	67
・対談「寿市民広場を振り返って」 土居満栄、永井栲美	68
・事業一覧	71
6 障がい者と公民館	
・障がい者と公民館	74
・いつまでもにじのはらっぱとともに 小沼智美	79

・事業一覧	80
7 公民館のまつり	
・本館まつり	82
・松林分館だれでもなんでも展	83
・白梅まつり	84
・公民館と私 - まつりをとおして - 清水特行	85
・事業一覧	86
8 公民館のつどい	
・公民館のつどいの10年	90
9 男女共同参画フォーラムと公民館	102
10 学習支援・サークル援助	
・講師派遣援助事業	109
・大小ホール会場借上援助事業	111
第3章 利用者連絡会・交流会のあゆみ、サークル紹介	
1 利用者連絡会・交流会と公民館	
・公民館本館利用者連絡会のあゆみ	113
・松林分館利用者交流会のあゆみ	115
・白梅利用者交流会のあゆみ	116
・本館利用者連絡会 萬沢 明	117
・事業一覧	118
2 サークル紹介	
・利用サークル一覧	122
第4章 公民館運営審議会	
1 公民館運営審議会のあゆみ	
・公民館運営審議会のあゆみ	125
・福生市公民館運営審議会の10年 田中加代	127
・公民館運営審議会委員	129
2 公民館運営審議会答申	
・NPO（特定非営利活動）法人への対処について	131
・公民館の管理運営について－指定管理者－	135
・公民館の管理運営について－公共性、事業評価	140
・要望書（公民館長あて、教育長あて、教育委員長あて）	146

第5章	これからの公民館	
1	これからの公民館	149
2	座談会「これからの公民館」	159
	秋山典子、朝岡幸彦、飯岡一文、田中加代、野澤久人、本庄公己、伊東静一	
資料		
・	公民館各館の利用回数、利用者数の推移	173
・	決算額にみる公民館費の推移	174
・	町丁別人口、世帯数	175
・	福生市の人口と世帯数の推移	176
・	本館利用者連絡会のあゆみ、きまり	177
・	白梅利用者交流会のきまり	179
・	講師派遣援助事業を利用するみなさまへ	180
・	大小ホール借上料援助事業取扱要領	181
・	職員配置一覧	182
・	16 ミリ発声映写機登録検定内規	184
・	年表	185